

此の度の震災、大津波から、ひと月余が過ぎました。

3月11日朝6時40分、何時もの様に「行って来るよ」「行っていらしゃい」の言葉を交わし、手を振って仕事場に向かったのを最後に午後にはあんな事になろうとは……今は只々悲しみに暮れ憔悴しております。

妻が3月11日津波の被害で行方がわからずに毎日、避難所、病院、犠牲者の安置所と探して居りましたが、見つけたのは安置所の何百人の中で3月21日に11日目で私の元に戻って参りました。その日のうちに仙台の友人達の計らいもあり、青森県三沢市の妻の兄姉に顔を見せてやる事が出来、3月24日には妻の兄姉のお陰で葬儀ができました。

高速道を妻と最後のドライブの中、一方通行に妻に話しかけながら… いつものならば「おとうさんおせんべいは?」「水いる?」「疲れない」と側で楽しそうに話す妻が居て、それに応える… 普段なら他愛ない会話も一言一句が貴重に思えてたまりませんでした。

道中に入った塾長の励まし、奥様の優しい慰めの電話の声にたまらず緊張の突っかい棒がはずれ、涙で曇る目を袖で拭いながらいっぱいお礼を言いたかったのですが、どうにか精一杯言葉に出来きたのは、

アリガトウゴザイマス…オス…

後日、塾長、奥様にはわざわざ仙台までお見舞いに来ていただきありがとうございました。又、身に余る香典お見舞いをいただきました。峰田支部長ご夫妻には、いの一番に電話をいただきご心配と沢山の香典、お見舞いをいただきました。山田支部長、狐崎支部長、中出支部長、松尾支部長、小川支部長、菅原支部長、児玉支部長、五十嵐支部長、飛永支部長、黒木支部長、木村指導員、関西支部の辻村、西出、河原支部長、岸和田の品野支部長の電話での励まし、電話の向こうから伝わる言葉に涙が止まりませんでした。

全国大道塾の志を共にする皆様方の力強さに自分は一人ではないと、此れ程に身にしみて感じた事はありませんでした。

時間が悲しみを和らげるとは言いますが一日も早く立ち直れる様、励ましに応えられるよう頑張って参ります。

道場資料、住所録等、私の長年の生活の記録、妻の写真の1枚も残さず全て根こそぎ何一つ残さず、津波が持って行ってしまい、ご連絡もままならない状態です。本来であればお一人おひとりにお礼のご挨拶を申し上げなければならぬのですが、どうか事情をお汲取りいただきまして、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

本当にほんとうにありがとうございました。

浪岡文雄